

札幌の小学校の中心校だった

## 創成小学校

区内で最も歴史のある創成小学校（現在の資生館小）。札幌の中心校として大きな役割を果たしてきたこの学校にスポットを当て、その変遷をたどってみました。

創成小学校（南三西七）は、この場所にあつた西創成小学校と市役所（北一西二）のところにあつた中央創成小学校が昭和四十年に統合してできました。歴史は中央創成小学校の方が古く、その始まりは、明治四年（一八七一年）十月に北一東二に新設された「資生館」です。資生館は、市内初の近代的な学校といわれていました。生徒は二十〜三十歳くらいの人たちが多く、年少の人はわずかで今の学校とはだいぶ様子を異にしていました。西創成小学校の前身は、中央創成小学校（当時の第一小学校）の分校として十三年（一八八〇年）にできた藻岩学校です。この学校は、寒冷地向けとして、ロシアの建築を参考に、丸太材を組み合わせて建てられたもの



明治41年の藻岩学校

です。二二年（一八八九年）には中央創成小学校（当時の創成小学校）に統合し、廃校となりましたが、生徒の増加により手狭となったため、二九年（一八九六年）に再び創成高等小学校として現在地に分けられました。

大正末には両校合わせると四千人を超えていた児

童は、都心のドーナツ化現象の進行とともに減少したため、昭和四十年に統合されて創成小学校となりました。このころの生徒数は、減少したといっても、千人を超えており、平成十年当時の百人強と比べるとずっと多くの児童が学んでいました。

創成小学校はその間に、豊水小学校や北九条小学



昭和9年ころの西創成小学校

校、幌西小学校ほかたくさんの小学校に児童を移してきたことから、札幌の小学校の親学校的存在、中学校と呼ばれてきました。

この学校の明治三十二年（一八九九年）の卒業生には「どんぐりコロコロ」の作曲者として有名<sup>やなだたけ</sup>梁田貞がおり、学校の前庭に建てられている胸像と音楽碑が昔をしのばせてくれます。

（平成十年四月号・第四十四回）



昭和28年に完成した中央創成小学校